

日本ボストン会報

発行者 日本ボストン会事務局 郵便番号227 横浜市青葉区若草台8-28

ボストン総領事館開館と日本語学校の思い出

代表幹事 井口武夫

私がボストン総領事館の開設を命ぜられたのは1979年4月であり、所要の予算は同年10月以降に配賦され、先発の館員がボストンに着任したのは12月頃であったと思います。

私は海洋法会議が最終段階にあったため80年4月に赴任の予定でありましたが、父が危篤となり5月末に死去したため、四十九日の法要を済ませて着任したのが7月後半になりました。

オフィスはボストン連銀ビルに確保して、当時の総領事館では最も快適で機能的であると大河原大使に羨ましがられました。私がニューヨークの海洋法会議出席中の週末に、ボストンに来て部屋の間取り設計など細部にわたって指示をしました。

開館で苦勞する一つは、優秀な現地職員を採用することですが、幸いボストンは日本人で有能な方が多くて選択に困りました。米人スタッフも日本語を大学で勉強した学生が多く、運転手迄が大学出であることは他の在米公館に例がありませんでした。

公邸探しにも苦勞がありました。本省が賃貸の大きな家を探す方針に固執したため、良い家の売り物はあっても、適当なものがみつからず、結局、通勤に便利で他の館員の住居地にも近く安全なブルックラインに中位の家を見つけて入居しました。息子3人は芝生の広い庭で野球が出来るために大変喜び、学校の友達とソフトボールをエンジョイしていました。拙宅に来られた当時の小和田雅子嬢が息子を相手にボール投げを興じられたこともありました。

ボストンの日本人会はドクター堀内や、MITの増淵先生、ハーバード大学の久野先生等の一流人が多くおられて、極めて和の保たれた仲の良い組織でありました。初代総領事を歓迎し、暖かく協力して戴き、大変お世話になりました。

日本企業は当時、日本電気・日本電子が大世帯であり、特に日本電気は高木さんがおられて日本のビ

ジネスグループを纏めておられ、私とはコンビで日本関係の広報講演で何回も旅行をしたのも楽しい思い出になりました。

日本人社会の大事な問題として日本語学校の改革と拡大がありました。私の着任前の日本語学校は現地の方々の涙ぐましい努力で運営されていました。

その授業内容に関して、日本のレベルとの調整を図ることが必要であるとの意見が短期滞在子女のご家族から出される一方で、長期滞在・永住のご家族の方々からは日本人としての基本的認識・知識に重点を置くことが望まれている様に思われました。それぞれのお立場から日本語学校に対するご期待にどう応えるかが難問でありました。

当時の一部のご父兄からは、日本政府の考え方に疑問を抱き、授業料も無料にして欲しいという要望すらありました。幸いに本省から在外日本人学校問題に豊かな知見を有する学芸大の中西先生が派遣され、関係教員や父兄の方々との十分な意思疎通を図ることに成功しました。久野先生や増淵先生のご理解とご協力を得て、ボストン邦人社会の子女教育のニーズを充たすブループリントを作り上げて、父兄総会のご賛同を得た時は本当にほっと致しました。

そこで、現地邦人の方々のご期待に沿うべく、早急に日本から正規の教員を派遣してくれるように強く具申をしましたが、本省は各地の公館から同様の陳情を受け、激烈な競争がありました。結局、ボストンとローマが最後の候補となり、その年度の都道府県教員派遣はボストンに凱歌があがりました。

日本語学校創立20周年記念行事にあたって、これで日本語学校の前途は洋々としたものになると考え、ボストンで3年以上頑張った甲斐があったとしみじみとした感慨を思い出しております。関係各位のこれまでのご努力とご尽力の成果に、衷心からお慶びを申しあげます。(現東海大学教授・国際法)